

| | |
|--------------|--|
| 開催地名：高知県四万十町 | |
| 開催日時 | 令和5年1月22日（日） 9：00 ～ 10：10 |
| 開催場所 | 窪川四万十会館 |
| 語り部 | 大内 幸子 （宮城県仙台市） |
| 参加者 | 四万十町職員、自主防災組織、関係機関、地域住民等 約140名 |
| 開催経緯 | <p>当町には現在88の自主防災組織があり、各組織においては、毎年、地域の実状に合わせた防災活動が実施されている。しかし、少子高齢化による後継者不足や防災活動への参加者の固定化、男性中心の防災活動、防災意識の低さ、危機感の無さ等により、共助の要である自主防災組織が万全に機能しているとは言えない状況である。</p> |
| | <p>（1）福住町の紹介</p> <p>私が住む仙台市福住町は、1,500人前後の新興住宅地で、過去の被災をきっかけに、独自の防災方式を生み出してきた。できるだけ行政に頼らない地域力の向上を目指すとともに、町内あげての災害対策を行っている。まずは要支援者の名簿作成、住民全員の名簿作成（1年更新）、仙台市内外の町内会・市民グループとの災害時相互協力協定の締結、お互いのできる範囲内での支援と交流（14団体）等を実施している。</p> <p>（2）東日本大震災時の記憶</p> <p>震災が発生した3月11日は、被災時を想定した訓練どおりに、要支援者の安否確認を30分で終わることができた。普段から45～50人ぐらいの要支援者の見守りをしていたので、名簿がなくてもすぐに駆けつけることができた。避難所の開設については、小学校の避難所には2,000人近くの避難者が殺到したため立ち後れたが、町内では暗くなる前に炊き出しの準備をし、公園に手作りのトイレや災害時がれき置き場を、訓練どおりに設置することができた。</p> <p>また、小千谷市の池原地区の方々が「7年前のご恩を忘れません」と駆けつけてくださり、支援物資をたくさん届けていただいた。小千谷市を含め4団体から支援物資をお送りいただいたので、約8割相当の物資については、支援いただいた4団体の許可を得たうえで、福住町より甚大な被害を受けた海沿いの地区へお届けし、役立てていただいた。</p> <p>（3）その後の地域防災活動</p> <p>仙台市では、平成24年度より地域防災の担い手を育成する目的で「仙台市地域防災リーダー（SBL）養成講習」を開始した。仙台市地域防災リーダー（SBL）には、町内会長などを補佐しながら、平常時には地域特性を考慮した防災計画づくりや効果的な訓練の企画運営、災害時には地域住民の避難誘導や救出・救護活動の指揮を行うなどの役割が期待されている。</p> <p>災害規模が大きいほど、公助には限界がある。自助・共助の取り組みが重要と感じ、併せて災害時には女性の視点に立った防災・減災が必要だと強く感じた。</p> |

東日本大震災をきっかけに、私は仙台市地域防災リーダーの認定を受け、女性のための防災リーダー養成講座を受講し、せんだい女性防災リーダーネットワークを立ち上げ、東日本大震災の教訓と人の命の大切さなどを発信し、人材育成活動を行っている。メンバーは町内会役員、学校支援関係者、民生委員、防災士、市職員、SBLメンバーから成り立っており、イベントや研修会など色々な切り口から防災を学ぶワークショップなどを開催している。女性ならではの視点とリーダーシップを活かした地域防災力を高める活動を意識している。

福住町の防火・防災訓練では、災害時の対応、減災を「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに毎年訓練している。15年前から消防署の指導ではなく、福住町独自の企画と運営で、「全員参加型」を目指す防災訓練であり、授業の一環として中学生が参加しているのも特徴である。

震災後、避難所運例マニュアルにも変化し、避難所は体育館から校舎の2～4階に避難すること、避難所運営委員企画員として女性の参画が進んだこと、簡易トイレは7:3で洋式が増えたことなどに改善点が見られる。また、防災訓練により各自の役割が明確化されるとともに、地域の名簿を毎年メンテナンスし、地域の中での見回りの体制が構築されている。地域住民が自分ごととして、防災・減災を考えられるように工夫していて、ボランティア活動や夏祭りやイベントで住民のコミュニケーションの構築を共に図っているのも特徴である。

(4) 参加者に伝えたいこと

できるだけ行政に頼らない地域力を持つこと、地域の災害の歴史を次世代に根気よく伝承していくこと、災害に対する備えや準備・取り組みは災害時のリスク削減に繋がること、地域での顔の見える関係が減災に繋がること、学校の防災教育と地域防災のタイアップが、地域の発展と防災力向上に繋がっていくことをお伝えしたい。防災・減災を進めていくには工夫と努力と知恵が必要だ。自分の命を守るため、大切な家族を守るために継続していくことをお奨めしたい。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、自主防災組織の取り組みや女性視点の避難所運営等の具体的なお話を伺うことができた。本日の講演を受けて本市としては、自主防災活動や避難所運営等に女性が参加しやすい体制づくりを進めるとともに、住民が飽きずに毎年参加したくなる防災訓練の実施を検討の上、進めていきたいと思う。